

情報通信月間参加行事 実施報告書

行事ID	C012	行事名	ネットの安心・安全シンポジウム
行事形式	シンポジウム	主催団体	(一財) マルチメディア振興センター
開催日	2023年8月25日	開催場所	オンライン開催
行事参加者数	83名	WebサイトURL	https://www.fmmc.or.jp/activities/kenkyukai/shinposium/

行実施概要・アピール等

今回のシンポジウムでは、ICTスキルを高める取組みや、安全に使うための取組みの先行事例を紹介しました。ユースケースを踏まえて、GIGAスクールの実現に向けて、優先的に取り組むべき課題と効果的・積極的な利活用の可能性についての議論を行いました。また、今回のシンポジウムに参加して頂いた有識者は、次のとおりです。

(コーディネータ)

竹内 和雄: 兵庫県立大学 環境人間学部 教授

(パネリスト 順不同、敬称略)

赤間 圭祐: 総務省情報流通行政局 情報流通振興課 情報活用支援室 室長

佐野 竜也: 尼崎市教育委員会事務局 学校教育部 いじめ防止生徒指導担当 主事

佐和 伸明: 千葉県柏市立大津ヶ丘第一小学校 校長

大塚 輝: 株式会社内田洋行 システムズエンジニアリング事業部 ネットワークサポートセンター センtralサポート課 課長

なお、本行事に関しては、当初は7月下旬に開催する予定で企画していましたが、参加者の日程の調整が整わず、6月下旬に8月下旬に繰り下げて開催することを決定しました。

シンポジウム実施後のアンケート結果によると、「内容のわかりやすさ」に関しては、約90%の参加者が「わかりやすかった」と回答し、「内容の有益性」に関しては、約80%の参加者が「有益であった」と回答した。

インターネット上での偽・誤情報等の流通の顕在化

● 多くのインターネット利用者が情報を収集・閲覧するプラットフォームサービス等のインターネット上で流通する情報には、誹謗中傷や偽・誤情報も含まれるなどの問題も顕在化※。

※ 一因として、偽情報は、SNSにおいて正しい情報よりも早く、より広く拡散する特性があることが指摘されている。

◆ インターネット上の偽・誤情報への接触頻度

- インターネット上のメディアにおいては、50%弱が月に数回以上、約30%が週に1回以上接触。
- まとめサイトにおいては、約60%が月に数回以上、約40%が週に1回以上接触。

問) 直近の1ヶ月の間で、あなたは次のメディアの中でどのくらいの頻度でフェイクニュース※を見かけますか。

※ ここでは、虚偽又は誤解を招く恐れのある情報(フェイクニュース)を指します。

メディア	令和3年度	令和4年度
インターネット上のメディア	19.1	18.7
まとめサイト	19.8	19.2

※ 回答は、一度も見たことがない、頻度はわからない、そもそもフェイクニュースなのかわからない、頻度はわからない、毎日見かけるの5段階。

出典: 「国内における偽情報に関する意識調査」(総務省)

◆ インターネット上での偽・誤情報の拡散事例

- ・ワクチン不妊「誤情報」拡散 29のSNS投稿が5万件転載
新型コロナウイルスワクチンを否定する投稿がSNSで広がっている。日本経済新聞の調べでは、ワクチンが不妊につながるというTwitter上への投稿が1月から7ヶ月間で約11万件あり、その半数の5万件超がわずか29アカウントの投稿が発端だった。
「日本経済新聞」(令和3年8月9日)
- ・ウクライナ侵襲「ウソ」氾濫 SNSで拡散 日本でも
ロシアによるウクライナ侵襲を巡り、ウソや真偽不明の情報が、日本国内のSNSユーザーの間にも広がっている。
「読売新聞」(令和4年3月19日)
- ・AI使い「静岡水害」とデマ画像、5600件以上拡散…投稿者は生成認める
台風15号に関連し、静岡県内で住宅が水没したとする偽画像がTwitter上で拡散され、9月26日未明に投稿され、
「Fリオン」で確認された静岡県内の偽画像は、AI生成によるもの。

結果は

● 日光江戸村
● おさるランド

日光江戸村 VS おさるランド